

大学共同利用機関法人自然科学研究機構
教育研究評議会（第62回）議事要旨

1. 日 時 令和元年11月28日（木）10：45～12：50
2. 場 所 自然科学研究機構事務局会議室
3. 出席者 小森議長、小川評議員、國中評議員、小間評議員、佐藤評議員、長谷川評議員、花輪評議員、松本評議員、村上評議員、徳田評議員、金子評議員、井本評議員、竹入評議員、阿形評議員、鍋倉評議員、上野評議員、南部評議員、岡本評議員
(陪席者)
二宮監事、竹俣監事、国立天文台 井口副台長
(事務担当者)
岡田総務課長、中野企画連携課長、鈴木財務課長、宮内施設企画室長、国立天文台 笹川事務部長、核融合科学研究所 西山管理部長、岡崎統合事務センター 棚木事務センター長及び三好財務部長 他
(研究成果発表者)
大森 賢治 教授（分子科学研究所）
4. 配付資料
 - 1 教育研究評議会（第61回）議事要旨（案）
 - 2 大学共同利用機関法人自然科学研究機構長候補者の決定について
 - 3-1 大学共同利用機関法人自然科学研究機構が設置する大学共同利用機関の長の選考の手続き及び任期等に関する規程
 - 3-2 大学共同利用機関法人自然科学研究機構大学共同利用機関長選考委員会規程
 - 4-1 機構における役職員給与の改定について（案）
 - 4-2 令和元年人事院給与勧告の骨子
 - 5 自然科学研究機構における“新承継年俸制”について（案）
 - 6-1 平成30年度に係る業務の実績に関する評価の結果について（通知）
 - 6-2 平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果 大学共同利用機関法人自然科学研究機構
 - 6-3 国立大学法人・大学共同利用機関法人の平成30年度に係る業務の実績に関する評価について（所見）
 - 6-4 国立大学法人等の平成30年度評価結果について
 - 7 第8回自然科学研究機構若手研究者賞授与式及び記念講演について
 - 8 第28回自然科学研究機構シンポジウムについて
 - 9 研究大学コンソーシアムシンポジウム（第3回）について
5. 議事等
議事に先立ち、事務局から定足数の確認があった。

1) 前回議事要旨（案）について

前回教育研究評議会（第61回）の議事要旨（案）（資料1）が了承された。

2) 自然科学研究機構長候補者の決定について

事務局から、資料2に基づき、自然科学研究機構長候補者の決定について報告があった。

3) 分子科学研究所長の選考について

事務局から、資料3-1及び資料3-2に基づき、関係規程の説明があった。

小森議長から、分子科学研究所長選考委員会より、川合 眞紀 氏（現 分子科学研究所長）を次期分子科学研究所長候補者（任期：令和2年4月1日～令和4年3月31日（2年））として推薦があった旨説明があった後、所長選考委員会委員長の松本評議員から選考理由等について説明があった。

各評議員から特段の意見等はなく、これを踏まえて機構長（議長）が決定する旨の表明があった。

4) 機構における役職員給与の改定について

徳田評議員から、資料4-1及び資料4-2に基づき、機構における役職員給与の改定について説明があり、審議の結果、案（資料4-1）のとおり了承された。

5) 新承継年俸制について

徳田評議員から、資料5に基づき、新承継年俸制について説明があり、審議の結果、案（資料5）の方向で導入していくことが了承された。

（主な意見等は以下のとおり）

- 一定年齢に達した場合に改定を停止するとはどのような意味なのか。
- 現在の月給制では55歳を超えた職員は昇給を停止しており、新承継年俸制においても同様に扱うことを考えている。
- 評価が3段階となっているが、多すぎるのではないか。
- 現在の年俸制においても、同様の評価システムを採用している。具体的には直属の上司が一次評価を行い、所長が決定したものを機構の業績評価委員会で最終決定している。
- 業績評価部分が増えることになるため、被評価者は評価結果を知りたいと思う。評価に当たっては評価項目を数値化する必要があると思うが、評価者の負担が大きくなるのではないか。
- 評価方法は研究所ごとに異なるが、基本的には数値化しており、被評価者から求めがあれば開示することとしている。
- 現在、月給制と年俸制で評価を別々に行っていることが負担となっているが、今回、新承継年俸制の導入に当たって、これらの制度も含め、評価を一元化する方向で検討している。

- 業績給について、現在の期末・勤勉手当相当額を基礎としているが、この額を上限として支給するということになるのか。
- 予算で縛られることはあるが、必ずしも現状の人件費が上限というわけではない。
- 予算が多い研究所と予算が少ない研究所で差が出ると思うが、その点はどのように考えているか。
- 研究所ごとに研究以外の業務も含め、行う業務が違うので差が出ても仕方ないと考えている。
- 限りのある運営費交付金を運営の原資とする大学共同利用機関では、結果として評価の高い人がいれば低い人を出さなければならず、組織にとって良い影響がないのではないか。
- マイナスをどのように考えていくかが重要であると認識している。
- 評価項目ごとの重みは、どのようになっているのか。
- 生理学研究所では、評価項目ごとの重みは被評価者が申告することになっている。また、大部分の方が自己評価と評価結果が概ね一致している。
- 核融合科学研究所では、細かい点も考慮して項目の重み付けを行っており、評価基準も公表している。研究以外では地域連携を重視して評価を実施している。
- 諸手当は、月給制と新承継年俸制で違いはあるのか。
- 月給制と同様のものを考えている。

6) 平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果について

金子評議員から、資料6-1から資料6-4に基づき、平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果について報告があった。

7) 第8回自然科学研究機構若手研究者賞授与式及び記念講演について

事務局から、資料7に基づき、第8回自然科学研究機構若手研究者賞授与式及び記念講演について報告があった。

8) 第28回自然科学研究機構シンポジウムについて

竹入評議員から、資料8に基づき、第28回自然科学研究機構シンポジウムについて報告があった。

9) 研究大学コンソーシアムシンポジウム（第3回）について

金子評議員から、資料9に基づき、研究大学コンソーシアムシンポジウム（第3回）について報告があった。

10) 機構の最近の研究について

本機構の最近の研究成果について、分子科学研究所の 大森 賢治 教授から「量子力学100年の謎と量子テクノロジー」と題して発表が行われ、意見交換

があった。

1 1) その他

国立天文台 井口副台長から TMT 計画の現状について説明があり、意見交換があった。

以上